

# 「儲かる方に『変革』」

## 「ハンドドルを切る方法」

— 人生の経営の師を持ち真似ること —



高井法博会計事務所所長  
TACCTグループ関連12社 代表  
税理士 高井法博

企業は『環境適応業』といわれる。経営とは、時代の流れに順応する技術ともいえる。お客様の要求すなわち時代の流れに上手に乗せられる企業は伸びているが、反対に逆行している企業は倒産に向かって驀進していることとなる。

では、どうすれば時代の流れをキャッチできるのか？  
職業柄、数多くの素晴らしい経営者にお逢いし経営の悩みを聞き共に考えたり、TACCT経営研究会を始め数多くの講演会などで、自分が体験してきた以上の数多くの人生や経営の生の声など、成功哲学を聞くことができる。

また、一冊の本から人生そのものが変わるときがある。私自身も小さいながらも会計事務所を母体に十二の会社・団体を主宰させていたおいており、中小零細企業のオーナー経営者である。会社を継続発展させるために決

断し実行して行かねばならない。その過程で、いわれなき中傷・プライドを傷つけられること、社員とのあつれき、売上の減少、資金の不足など、日々次から次へと色々な問題が起り眠れない日が続き心の安まる時がない。開業当初、頑張れば頑張る程あまりの苦しさ、なぜ自分だけがこんなに苦労をしなければならないのかと「死」さえ考えたことがあった。しかし、じっと耐えて経営を続けているうちに徐々にではあるが経営とは何かというものが体で解り始めてきた。

ともできる。ただし、成功する方向にギアを変えねばならない。時には勇気を持って経営手法を変える必要もある。反面いかなる時代になろうとも変えてはならない、変わらないうものがあるのも事実である。これらは先程の講演会や本を通して素晴らしい人との出逢いにより『経営の、生き方のコツ』を体得して行くものだと思う。

人間はまさに不完全であり欠点だらけで、迷いに迷い三歩進んで二歩下がるような、一歩一歩を目標に向かい牛歩のような歩みで進んで行くものだと思う。

一、経営の『師』である達人をまねること。  
不況不況というが全てが悪い訳ではなく、飛躍的に業績を伸ばしている企業、また伸びている業種がある。慢心せず、何をやっても成功している経営者もある。

ただ漫然と経営をしていると、その事業人は結局何もしないで終わってしまうと思う。ブッダは、人生で大切なものを三つ挙げてい

る。それは、『人生の師』と『人生の目的』と『人生の友』である。大多数の方はこの三つとも持っていない。自分の人生なのに自分の人生を構築してこなかったのは人生の師がないのだから、人生の何たるかがわからな

い。このまま人生を知らずに終わると知ったら恐ろしい。

気づいた時が一番若い時である。この三つ

を意識し、現時点で最も良いと思われる師・目的・友を決めていただきたい。コツは、高い思想を持った師・友を如何にたくさん持つかである。それらの人々の企業に出かけ逢い話を繰り返し繰り返し聞き、ドンドン受け入れ一挙手一投足、話し方や書き方など、更には危機に際しての判断と決断の仕方などを学んで欲しい。

この極意は、いくら上手く行かなくても、失敗しても決してあきらめず前向きに成長しようとする姿勢、求め続けようとする姿勢にあると思う。あらゆること、不撓不屈の精神から成就する。

